崇城大学

オープンキャンパス2016開催!

事前参加予約者には当日特典あり!

両日とも 9:30〜15:00

※事前予約は、崇城大学ホームページ「高校生向け特設サイト」の「2016オープンキャンパス」の中にあるフォームからご記入をお願いいたします。

第1回 7.24[日]　第2回 8.21[日]

※「芸術学部 AO入試対象 コース別体験講習会」同時開催

入試対策講座(要予約)

TEL:096-326-6810 (入試課直通)

第1回 11月3日(木・祝) 推薦入試・特待生「ミライク」対策

第2回 12月18日(日) 一般入試・特待生「ミライク」対策

芸術学部 デッサン講習会

※本学HPより事前にお申込み下さい。

8月21日(日) 9:30〜15:00 AO入試対象体験講習(有) 全学オープンキャンパス同時開催

10月2日(日) 10:00〜16:00 無料ツアーバス運行!

11月3日(木・祝) 10:00〜16:00 AO入試対象体験講習(有)

※当日プログラムは本学HPでご確認下さい。

崇城大学 SOJO UNIVERSITY

〒860-0082 熊本市西区池田4-22-1 / tel.096-326-3111(代表) fax.096-326-3000 / 広報誌「がくふう」第75号 発行 2016年7月 / 崇城大学広報誌編集委員会・学生広報委員・広報課

※岳風の定期発送希望の方は、氏名・住所・学校名・Eメールアドレスをご記入の上、広報課(koho@ofc.sojo-u.ac.jp)までご連絡ください。ご意見・ご感想もお待ちしております。

薬学部 薬学科

生物生命学部 応用微生物工学科 / 応用生命科学科

工学部 機械工学科 / ナノサイエンス学科 / 建築学科 / 宇宙航空システム工学科

情報学部 情報学科

芸術学部 美術学科 / デザイン学科

岳風

VOL.75 Summer 2016

TAKE FREE

崇城大学広報誌 岳風(がくふう) 2016

特集

崇城大学は元気です! 熊本地震からの復旧記録

PROJECTALK

業界の理解と専門知識を備えたエアラインパイロットへの道のり

笑顔と感謝の表彰制度

崇城大学では「体」「徳」「智」の各分野で頑張っている学生を表彰しています。

第9回パワー賞

第9回スピリット賞

第9回ブレイン賞

第10回全体集合

第11回全体集合

第12回ブレイン賞

第12回パワー賞

第13回パワー賞

第13回スピリット賞

第13回ブレイン賞

崇城大学は元気です！

2016年4月14日、4月16日。
最大震度7の揺れが二度も起こるという異例の事態となった熊本地震。
日常が失われたあの時、
熊本のために立ち上がった学生がいました。
困っている人のために行動した学生がいました。
遠く離れた地で支援を行った学生がいました。
そんな崇城大生と大学の復旧を振り返ります。

学長 中山峰男

震災体験で学生が急成長しました。被災しながらも献身的にボランティア活動に尽力した学生たちに涙が溢れ、何かの助けになればとボランティアにまい進した学生たちに感動し、県外に避難しても母校や熊本を思いやり募金や支援活動を行なった学生たちに感謝し、改めて若い人のポテンシャルに大きな可能性を感じました。今後も社会に貢献する人材を育成してまいります。

本学の多くの学生がボランティアや支援活動で震災の復旧に貢献しました。

▶崇城大学の震災直後から復旧への歩み

図書館

書架から本が落ちた図書館【4月19日時点】

元通りになった書架【7月1日時点】

本館壁面

タイルが落ちた本館壁面【5月11日時点】

修繕作業が進む壁面【7月1日時点】

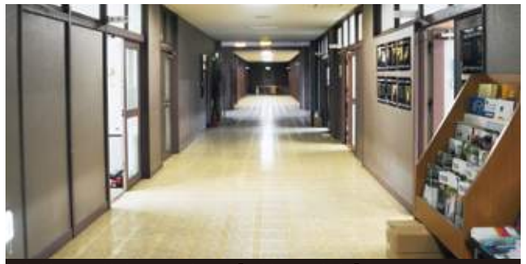
本館6F

天井が崩れ落ちた本館6F学術講演会室【4月16日時点】

天井の修復と椅子のクリーニングが済んだ会室【6月21日時点】

本館廊下

震災で壊れた什器類を搬出【4月19日時点】



片付けが終わった廊下【7月1日時点】

空港キャンパス

敷地内に仮設の学生寮・教室・実習棟の建設を開始【5月13日時点】

完成した仮設の学生寮・教室・実習棟【5月31日時点】

学生らが中心となって開発。断水箇所が一目瞭然！「MIZUDERU.INFO」

今回の熊本地震では、多くの地域が断水に見舞われた。そのような中、本学の教員と学生らが一体となって、断水状況が確認できるアプリを開発した。

発案したのは情報学科の和泉先生。「地震発生直後は、水道局が“断水”と発表している地域でも水が出ている場所があったりと、情報がしっかり整理されていませんでした。そこで、水が出ているかどうかを市民の目で確かめて広く伝えられるウェブサイトができないかと考え、Twitter上で声かけを行ったのです。」その呼びかけにすぐさま反応したのが、情報学科２年の菊川君。「和泉先生のツイートを見て、3時間ぐらいでプロトタイプ（試作品）をつくりあげました。」「研究室のOBや全国のエンジニアたちからも“サイトの運営に携わりたい”との連絡がきました。」と和泉先生。4月17日～5月末までの合計閲覧数は 55,695回にも達した。

「今まで集まった情報を分析すれば、断水状況がどのように変化していったのかが分かります。今後、同様の被害を受けた時の参考にできるよう、検証を進めていきたいです。」と和泉先生は語る。今後の研究にも、期待したい。

「MIZUDERU.INFO」画面イメージ

情報学科 和泉先生　　情報学科２年 菊川さん〈熊本県／鹿本高校出身〉

運営スタッフの学生リーダーとして活躍。

本震後、近くの中学校に避難していましたが、熊本市のボランティアセンターが立ち上がってからは、毎日欠かさずボランティアに通っていました。始めのうちは避難所や個人宅でがれきの撤去などを行う一般ボランティアとして参加。その後、スタッフの方から「運営スタッフが足りていない」と聞き、運営スタッフとして活動するようになりました。

実はボランティアセンターに通う以前、地震が収まるまでは実家のある鹿児島に帰省しようかとも考えていました。しかし、東稜高校に手伝いに行ったとき、家が大変な状況にある中でもボランティアとして働く高校生たちを目の当たりにし、「自分も熊本に残ってボランティアを続けよう」と決心しました。

地震の前よりも、より良い暮らしを実現させることが復興だと思います。熊本がもっともっと活気ある街になるように、できることを続けていきたいと思います。

応用生命科学科３年　東垂水さん〈鹿児島県／志布志高校出身〉

龍田小学校に駆けつけた崇城大生。無欲無償の働きに感謝。

私たちは避難所となった龍田小学校で、ボランティア活動に取り組みました。主な作業は支援物資の仕分けや食事の準備、室内清掃などで、連日早朝から夕暮れまで活動していました。長期間にわたって断水が続き、避難勧告も出されていた龍田地区。龍田小学校では、多いときで150人もの人たちを受け入れ、その人たちのサポートを行いました。

実を言うと、私たちが龍田小学校に駆けつけたきっかけは様々です。藤枝さんは友人から龍田小学校の避難状況を聞いたのがきっかけ。古川さんは母校を助けたいと思い、坂本さんと木村さんは人手が不足している避難所を自ら探して、この龍田小学校に向かいました。しかし、みんな誰かの役に立ちたいという気持ちが心のどこかにあったのだと思います。

本震から1ヶ月ほどが経った頃、龍田小学校の本村校長先生から感謝状をいただきました。決して感謝されるために活動をした訳ではありませんが、とても嬉しかったです。あらためて、行動してよかったと思いました。

左から
応用微生物工学科３年 藤枝さん〈熊本県／熊本北高校出身〉
応用生命科学科２年 木村さん〈熊本県／文徳高校出身〉
応用生命科学科３年 坂本さん〈熊本県／文徳高校出身〉
薬学科２年 古川さん〈熊本県／済々黌高校出身〉

日本赤十字社熊本県支部で寝泊まりをしながら、ボランティア。

以前から熊本の青年赤十字奉仕団に所属し、イベント補助などの活動をしていました。その関係で、今回の熊本地震では日本赤十字社熊本県支部で寝泊まりをしながら、ボランティアに参加。全国の赤十字病院から派遣された救護団を避難所に案内するなど、授業が再開されるまでの間、様々な活動にあたりました。余震が落ち着いてからは、東京での報告会などに参加し、多くの人に今回の体験を伝えています。

東日本大震災が起こった東北では現在、仮設住宅での孤独死などが問題視されています。熊本でも同様の問題が起きないよう、今後は仲間とともに被災者への声かけを行い、心のケアに取り組んでいきたいです。

応用微生物工学科３年　平塚さん〈福岡県／常盤高校出身〉

みんなで乗り切った、避難生活。

震災後、私たち中国人留学生は、単先生、劉先生と一緒に、熊本県立体育館に避難しました。母国の中国は地震が多い土地ではないので、みんなどのように対処したらいいかわからず困っていましたが、一緒にいることでライフラインの情報などを共有できたりして助かりました。避難所では物資を運ぶ手伝いなどはもちろんですが、子どもたちと遊んだり、色々な人とコミュニケーションをとるように心がけていました。避難所にいるみんなが、不安を抱えていましたが、身体を動かしたり話をしたりすることで自然と楽な気分になれました。大変なときだからこそ、みんなで楽しむことが大切なのだと実感しました。

前列左から：機械工学科４年 盧さん　機械工学科３年 辛さん　留学生別科２年 郭さん　機械工学科３年 姜さん　後列左から：総合教育センター 単先生　機械工学科 劉先生

震災時の崇城大生

その時、何を感じ、何を考えたか。

崇城大生熊本地震体験記

ボランティアで感じた、人の心の温かさ。

ナノサイエンス学科３年 成田さん
〈熊本県／宇土高校出身〉

私の家は被害が少なかったので、困っている人の助けになりたいと思い、熊本市のボランティアへの参加を決意しました。実際には被災宅へ向かうのではなく、運営スタッフにまわることに。ほとんどのスタッフが大学生だったのでコミュニケーションもスムーズに取れ、普段なかなか話さない他学科の崇城大生とも仲良くなれました。一番忙しかったのは、ボランティアが集中するゴールデンウィーク期間です。なかには、かつて地震で助けてもらった恩返しのためにと、福島や北海道、スマトラからはるばる熊本まで来てくださった方もいました。また、昼食などの差し入れをいただくこともありました。ボランティアは無償で行うことが前提なので、いただいて良いものかと思うこともありましたが、人の心の温かさを身を持って感じる体験となりました。

アルバイト先で、多くの被災者に対応。

応用生命科学科２年 山本さん
〈熊本県／第一高校出身〉

私のアルバイト先のコンビニは熊本機能病院内にありました。震災直後から病院は避難所となったため、それから数日はそこに避難してきた人たちの対応に追われました。スタッフも不足しているなか、販売制限などもあって大変でしたが、今回の経験で一つ成長したように思います。

互いに助け合った、公民館での避難生活。

情報学科４年 仲原さん
〈熊本県／宇土高校出身〉

本震後、私の住む地域ではたくさんの人たちが公民館に集まって避難していました。互いに毛布を貸し合ったり、食糧を分け合ったりして、不安な夜を乗り越えました。なかには揺れが怖くて避難できない人もおり、公民館に避難するように呼びかけを行うなど、知人と一緒に近所の見廻りを行いました。

様々なお店の心意気に感動。

薬学科１年 中島さん
〈熊本県／真和高校出身〉

本震から2〜3日後、まだスーパーなども閉まっていて食糧が不足していた頃、食べ物を配っているレストランやお菓子を配っているケーキ屋さん、シャンプーサービスをしている美容室など、近所のいろいろな店が力を合わせて頑張っているのを見て、嬉しくなりました。

支援のため、鹿児島から再び熊本へ。

応用生命科学科２年 中尾さん
〈鹿児島県／大口明光学園高校出身〉

私は本震の後、実家のある鹿児島に帰りましたが、ボランティアを通じて被災地支援をしたいと思いゴールデンウィーク前に熊本に戻り、友人と共にボランティアへ。被災地の実態を目の当たりにすると、TVや新聞では報道されない問題点などが見えてきてとても驚きました。

本学からボランティアを派遣。

本学では4月25日から学生の災害ボランティア派遣を開始。集まった学生と教員は飲み物や弁当を持参のうえ、本学のバスで熊本市や益城町に向かい、朝から夕方まで支援や復旧作業に奮闘しました。

鹿児島の友人と一緒に、募金活動。

薬学科１年 竹田さん
〈鹿児島県／出水中央高校出身〉

私は本震のとき熊本にいましたが、その翌日、親が迎えに来てくれたので実家のある鹿児島に帰りました。高速道路が使えないなか、私のように他県へ避難する車も多かったのか、延々と渋滞が続いていました。それから数日後、私も何か力になれないかと思い、地元の友人と協力し募金活動をすることに。集まったお金はおよそ10万円。そのすべてを日本赤十字社に送りました。「頑張って」と声をかけてくれたり、飲み物などの差し入れを頂いたりすることもあり、たくさんの方から元気をもらいながら活動を行いました。

女性でもできる支援を探しながら…。

応用生命科学科２年 緒方さん
〈熊本県／第一高校出身〉

私はゴールデンウィークに、学科の友人たちと一緒に熊本市のボランティアに参加しました。主な作業は一般宅でのがれきや家具の運搬など。力仕事が多く、女性ができる作業はなかなかありませんでしたが飛び散ったガラスの片付けなど、できる支援を探しながら取り組みました。

必需品を買い求めるお客さんが殺到。

デザイン学科３年 魯さん

本震が来たのは、私がちょうどアルバイトをしていた時でした。その後、モバイルバッテリーや水などの必需品を買い求めるお客さんが店に殺到。一段落したところで店を閉めましたが、その後も棚から落ちた商品の片付けに追われました。

実家を案じながら、ボランティアへ。

応用生命科学科１年 徳永さん
〈山梨県／日本航空高校出身〉

実は、私の実家は益城の方にあり、壊滅的な被害を受けてしまいました。しかし「今は自分がいる場所でやれることをやろう」と覚悟を決め、文徳高校のボランティアスタッフとして支援物資の配布やバケツリレーなどを行いました。

自分に何かできることをと思い、益城へ。

応用微生物工学科４年 冨永さん
〈熊本県／第一高校出身〉

自宅の被害は食器が割れた程度で、さほどひどくはありませんでした。しかし、テレビで報道される悲惨な状況を目の当たりにするうちに、私も何かできないかと思い大学の友人たちと連絡を取り始めました。そして、その友人たちとともに益城町へボランティアに向かうことにしました。活動内容は避難所でのトイレ掃除や被災家屋の片付け、支援物資の配布など。炊き出しの手伝いでは、ボランティア14人で1000人もの食事を調理することも。初めて益城町の被災状況を目にしたときはその凄まじさに言葉が出ませんでしたが、そのような中でも「ありがとう」と声を掛けてくださる方もたくさんいました。改めて、熊本のために頑張ろうと思えました。

足の踏み場もないほどに、食器が散乱。

美術学科３年 松本さん
〈熊本県／文徳高校出身〉

本震の時、私は自宅にいました。揺れに驚き1階に降りてみると、皿がたくさん落ちていて足の踏み場が全くありませんでした。その日は近くの公園で野宿をしましたが、翌日からは車中泊をすることに。身体も充分に伸ばせないため、数日間、肩こりに悩まされました。

こんな学生達もいました

- SNSで呼びかけ募金活動に尽力した
- 地震で沖縄や福岡に帰省しても仲間と募金活動を行った
- 現在も小学生対象の課外授業を継続して行っている
- 保育園でのボランティアを行なった
- 避難所に自費で物資を届けたうえ近所のコンビニの復旧作業を手伝った
- 地域のボランティアセンターで運営支援を行った

他多数

（2016年7月時点 広報課調べ）

※これらの学生の活動の一部は新聞に掲載されました。崇城大学ホームページからご覧いただけます。http://www.sojo-u.ac.jp/news/media/

※背景は2016年6月時点の池田キャンパスの中庭

試行錯誤しながら、井芹中でのボランティア。

私たちが避難した井芹中学校には、ピーク時で1500人もの人たちが身を寄せ合っていました。幸い私たちは自宅が無事だったので、困っている人たちを助けられたらと思い、そのままボランティアに参加。計15人ほどの崇城大生が集まりました。主な作業は、物資の支給、配布、管理などです。その他にも車いすの方の介助をしたり、お年寄りのところへ支援物資を持って行ったり、できることを探しながら活動していました。しかし、大変なことばかりではありません。全国から届く物資に書いてある応援のメッセージや、避難所を出ていかれる方からの感謝の言葉などをいただき、たくさんの人の心の温かさに触れることもできました。つらい時こそ力を合わせて助け合う、貴重な体験になりました。ここでできたコミュニティでBBQをしたりと今でも支えになっています。

左上から時計回りに

応用微生物工学科
3年 後藤さん〈大分県／日田高校出身〉

宇宙航空システム工学科（航空整備学専攻）
4年 田中さん〈福岡県／中村学園三陽高校出身〉
4年 田村さん〈広島県／広島国泰寺高校出身〉
4年 宮本さん〈千葉県／敬愛学園高校出身〉
4年 岸本さん〈沖縄県／名護高校出身〉
4年 宮城さん〈沖縄県／浦添工業高校出身〉

遠方から支援をする、崇城大生。

応用微生物工学科4年 木場さん
〈鹿児島県／鹿児島玉龍高校出身〉

私は鹿児島に避難していたときに「熊本地震NBC作戦」というプロジェクトに参加し、熊本に支援物資を送る作業をしました。その際、同じ崇城大生に遭遇。さらに街中でも募金活動を行っている崇城大生も見かけました。

人との交流、貴重な経験に。

応用微生物工学科3年 木村さん
〈宮崎県／延岡星雲高校出身〉

私はGW明けから、毎週土日、熊本市のボランティアセンターで運営スタッフとして活動をしてきました。他大学の学生や社会人の人、様々な人たちと協力して活動できたので貴重な経験になりました。

避難所の子どもたちとサッカーをしてリフレッシュ。

応用微生物工学科3年 白濱さん
〈熊本県／天草工業高校出身〉

震災から1週間後、私は井芹中学校に避難している子どもたちとサッカーをして過ごしました。子どもも大人もストレスが貯まって疲弊していたので、少しでも力になれたかと思います。

▶本学の被災学生への支援

学納金の負担者が死亡	学納金の全額免除
家屋の全壊、大規模半壊	学納金の全額免除
家屋の半壊	学納金の半額免除

卒業まで継続して免除します。
また、来年度入学生にも同様の減免を実施します。

崇城大学 ボランティアビレッジ、開設。

5月3日、本学池田キャンパス敷地内にボランティア専用のキャンプ場「崇城大学ボランティアビレッジ」がオープンしました。設立したのは、本学卒業生で株式会社ちかけんプロダクツの三城さん、池田さんら。場所の提供を学長に依頼し、大学が協力することに。テント、食事などの提供はもちろん、ボランティアの募集情報などを提供する案内所も設置されました。

＼在学生200人に聞きました！／

なんでもランキング

Q. 震災時、役に立ったアイテムは？

1位 スマートフォン
いま必要な情報を得るにはコレが一番。／物資が手に入る場所もわかるし、逆に何が必要なのかコチラから発信することも可能。／友人と連絡をとって、不安を取り除くことができました。／懐中電灯代わりにもなるので、停電時も大助かりでした。

2位 水
お風呂をためておいてよかったです。／地震以来、家にストックしています。／断水したときに、ありがたさを実感しました。／前震から水をストックしていたので、給水所の行列に並ばずに済みました。

3位 懐中電灯
懐中電灯がなければ、床に落ちたガラスを踏んでいたかもしれません…。／いざという時のために、今も枕元に置いています。

4位 毛布
本震のあと屋外で一夜を過ごしたので、防寒対策になりました。／車中泊をしたとき、クッション代わりに利用しました。／避難所の床は硬いので、寝ているだけで筋肉痛に…。ふかふかの毛布があったので、少しは改善されました。

5位 ウェットティッシュ
断水して手洗いが困難なときに使えました。／お風呂に入れない時は、体を拭いて過ごしました。／赤ちゃんがいる家庭は、おしりふきが重宝していたみたいです。

こんなアイテムも役に立ちました。

●食品用ラップ
お皿にかけて使えば、洗う必要なし。

●ドライシャンプー（水を使わないシャンプー）
断水が続き、お風呂に入れなかったので重宝しました。

●携帯トイレ
トイレが混んでいたり水が流れないときに助かりました。

●ヘルメット
家の片付けをしていたら、突然、壁掛け時計が落下。ヘルメットを被っていたので、大怪我を負わずに済みました…。

●自転車
震災から数日後、ガソリンの供給がストップ。車が使えなかったので、自転車で買い出しなどに出かけていました。

Q. 普段から使うアプリをどのように活用したか？

LINE
普通の電話は繋がらなくなりましたが、LINEの回線だけは使えました。／通話機能を使って両親の声が聞けたとき、ホッとしました。

Twitter
いろんな人達の投稿を見て、道路が通れるかどうかを確認していました。／全国からの応援の投稿に、励まされました。

Facebook
安否確認機能で友達の無事を確認しました。／友達が流してくれたライフライン情報などを、常に確認していました。

Yahoo! 防災速報
震度や震源を確認するのに役立ちました。／雨も多かったので、土砂崩れなどが起こっていないか確認していました。

崇城発！ 断水時に役立つウェブサイト
MIZUDERU.INFO
断水地域を確認して、友人の所に水を届けにいきました。／同じ崇城大生が頑張ってるんだなと、勇気づけられました。

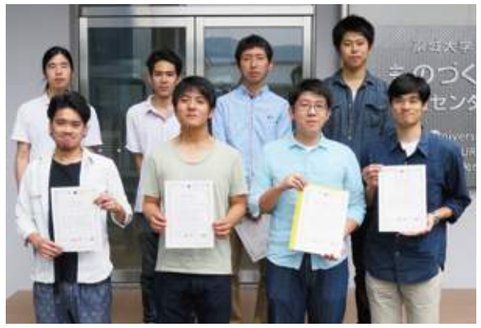
SOJO UNIVERSITY

TOPICS

機械工学科

QC（品質管理）検定に2級1名、3級14名が合格!

第21回QC検定試験3級（2016年3月20日実施）に機械工学科学生14名（現4年13名、現大学院生1名）が合格した。さらに、大学院生1名は3級と2級に併願し、両方に合格している。QC検定とは、品質管理に関する知識の技量を日本規格協会が評価認定する検定試験であり、機械工学科では「生産システム」の講義において、QC検定受験を指導・支援している。今回の3級合格率は70%であり、全国平均の56%を大きく上回る結果が得られた。



ナノサイエンス学科

日本学術振興会特別研究員（DC1）に採用

大学院応用化学専攻 博士1年道田さん（本学卒（熊本県／天草高校出身））が日本学術振興会特別研究員（DC1）に採用された。研究員には奨学金と研究費（年間70万円）が支給され、工学部門では全国で108名が採用された。そのうち88名が国公立大学生（東大19名、京大10名等）、20名が私立大学生(早大9名、慶応大7名等)、また、九州地区では九大生3名、長崎大生1名、崇城大生1名という結果であり、道田さんは超難関の審査を突破したことになる。

右から2番目が道田さん、中央が指導教員の草壁教授

建築学科

建築設計競技にて大賞を受賞!入賞は2年連続。

構造品質保証研究所主催の第4回SRF賞（2016年3月12日（土）開催）において、中薗研究室の2015年度修士1年江上さん、4年太田さん、徐さん、金さん、船津さん5名が学生部門で大賞を受賞した。昨年は大賞者該当無しの優秀賞と、もう少しのところで悔しい思いをしたが、今年の作品は「文句なしで大賞に該当する作品でした」と、審査員の先生方からすばらしい講評を頂いた。

〈SRF賞URL〉http://www.srfcon.com/

テーマ「みんなで考える「安全で快適な街づくり」」
しなやかで軽やかなSRFとマグネシア結合材による耐火耐震補強木構造の提案

宇宙航空システム工学科

エアラインパイロット養成大学合同説明会を開催。

東京（6月26日）、大阪（7月2日）、福岡（7月3日）にて、エアラインパイロット養成コースを有する崇城大学・法政大学・桜美林大学・千葉科学大学の4大学が合同で説明会を開催した。会場は、エアラインパイロットを目指す多くの高校生とその保護者で埋め尽くされた。大学毎の個別説明会場では、地震の影響を心配する声もあったが、訓練施設等の被害は少なく5月から訓練を再開していることを説明。その他、本学のパイロット訓練施設が航空機使用事業所の認可を取得していることや、大型旅客機（ボーイング737）のシミュレーターを用いた訓練を実施していることなども紹介した。また、個別説明会の待ち時間には、エアラインに就職した卒業生による説明も行われた。

情報学科

熊本日日新聞で本学学生による連載がスタート。

2016年4月より熊本日日新聞とSCB放送局とのコラボ企画として、新聞紙面での1年間の連載が始まった。復興に向けて「街を元気にする」目標を掲げ、学生手作りのアクティビティで、放送局学生取材班のメンバー11名が取材し、記事を書いている。

応用微生物工学科

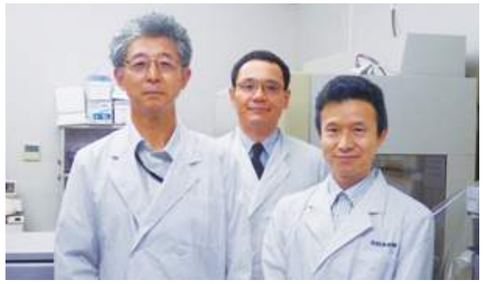
日本農芸化学会功績賞を受賞。

本学科の山田耕路教授が、平成28年度日本農芸化学会功績賞を受賞した。農芸化学会はバイオサイエンス・バイオテクノロジーを中心とする多彩な領域の研究者、技術者、学生、団体等によって構成された、会員数1万人を超える大きな学会。この賞は、農芸化学の発展に特に功績のあった者に贈られる。山田教授が長年研究してきた「食品成分の体調調節機能に関する統合的研究」が高く評価された。

応用生命科学科

「藻類・植物の進化に関する新たな仮説」をThe ISME Journalに発表。

本学科宮坂研究室において、宮坂均教授、緒方猛さん、山本進二郎准教授、林修平助教のグループが、関西電力（株）、中外テクノス（株）、高知工科大学（大濱武教授）、千葉大学大学院園芸研究科（高橋広夫准教授）、大阪大学大学院薬学研究科（平田收正教授・松浦秀幸助教）との共同研究で「Is chloroplastic class IIA aldorase a marine enzyme?（葉緑体のクラスIIAアルドラーゼは海の酵素か?）」とする論文をNature Publishing Groupの「The ISME Journal」に発表した。

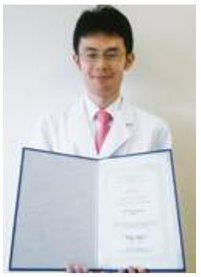


左から 宮坂教授、林助教、山本准教授

薬学科

永井財団大学院生スカラシップを授与。

5月19日～21日に岐阜市で開催された「日本薬剤学会 第31年会」において、大学院 薬学専攻 博士3年田渕さん（本学卒（熊本県／鹿本高校出身））が永井財団大学院生スカラシップを授与された。この助成は年会での発表の中から審査され、優秀な演題に贈られるもので、評価された演題は「シクロデキストリン/キトサンナノファイバーコンポジットゲルの徐放性素材への応用」。



総合教育センター　美術学科　デザイン学科

芸術表現を通した、日本とフィンランドの国際交流。

芸術表現を通した日本とフィンランドの国際交流展（REALISM of MOVEMENT）がエミールセーデル美術館（フィンランド）で3月21日～7月10日まで開催された。本学からの出品者は、総合教育センターの星加民雄准教授、美術学科の勝野眞言教授で、星加准教授が研究代表者を務める科研Aプロジェクトの成果発表の一環として行われた。双子の兄弟でアーティストでもある、星加達夫氏がフィンランド在住であったことから、この地での開催が決定したとのこと。映画「マジックユートピア」の映画音楽作曲家である志娥慶香氏もオープニングの応援演奏で駆けつけ、さらに写真の専門家であるデザイン学科の甲野善一郎助教も加わり、レベルの高い撮影記録を行った。フィンランドでは報道も多く大好評であった。

5月3日～8日には同会場で芸術工学会国際シンポジウム・イン・フィンランドも開催され、「視覚への挑戦」をテーマに音楽と踊りと平面、立体の表現がコラボする世界的にも珍しいパフォーマンスが披露され観客をわかせた。また大会3日目には、山川烈副学長による「水と木と竹の文化」と題するレクチャー講演が行われ、自らが演奏する尺八と玉枝夫人の箏による共演も実現した。

展示室風景1（右:星加民雄/作、奥:勝野眞言/作）

展示室風景2（右:勝野眞言/作）

展示室風景3（勝野眞言/作）

PROJECTALK プロジェクトーク 03

業界の理解と専門知識を備えたエアラインパイロットへの道のり

業界トップクラスのセオリーを説く、渡辺先生。
JAL（日本航空株式会社）の社員、JEX（株式会社ジャルエクスプレス）の社長などを務めたという経歴をもつ渡辺先生。その経験を生かして、エアラインパイロットの養成の教育を行なっています。今回はその渡辺先生の教育の姿勢やセオリーに迫ります。

目標を明確に導くため 業界の今を知る

航空産業は国家や社会の重要なインフラであり、経済交流・社会文化交流の橋渡しをする極めて大事な産業と位置づけられています。特に資源の乏しい日本においては、外国との円滑な交流が21世紀を生き残っていくために必須であると考えられます。この広範な交流を支える航空全般に関連する基礎知識の習得、航空業界の抱える課題への理解、日々の活動など周辺業務のすべてを理解することで将来の目標を明確にします。

安全第一の心構え 機長になるために必要な要素

航空会社は、パイロット、整備士、CA、管理スタッフ、運営スタッフなど多くの人間が関わりその全員で安全を確保し運航運営する組織です。本学では、多数の元エアラインパイロットの機長が教官として指導をしています。私は、元航空会社社長としてパイロットの採用面接も行なっておりましたので、どんな人材がパイロットとして必要とされるかを明確に理解しています。その視点でエアラインパイロットに必要な知識の指導をしています。

工学部 宇宙航空システム工学科
航空操縦学専攻
渡辺 武憲 教授

【バロンG58受領セレモニー】

6月17日、復旧の"キタイ（機体＆期待）"である双発機バロンG58が崇城大学へ到着しました。今回の熊本地震で空港に隣接する本学空港キャンパスは、震源地に近いこともあり大きな被害を受けました。しかし、空港キャンパス内の無事かつ安全であった格納庫に教育機能を移転し、復旧を行いながら、パイロットの訓練を行なっていました。この空港キャンパスでは、"工学部宇宙航空システム工学科"のパイロットを目指す"航空操縦学専攻"と整備士を目指す"航空整備学専攻"が訓練を行なっております。現在、全員が大学に戻り元気に訓練を再開しています。写真は、空港キャンパスの学生達にもっと元気を出してもらおうと、空港キャンパスで、新・訓練機の到着のセレモニーが開催された時の様子です。
※このセレモニーは渡辺先生が発案しました。

セレモニーの動画はコチラから

崇城大学へ学びに来た留学生や、世界へ旅立つ学生に話を聞きました。

GLOBAL SOJO Vol.03

“インターナショナル・サマー・サイエンススクール・ハイデルベルク2016”代表者決定！

応用生命科学科3年 前田さん
〈熊本県／天草高校出身〉

薬学科3年 篠原さん
〈福岡県／明治学園高校出身〉

ドイツのハイデルベルク市が世界各国から学生を募り、著名な科学者とともに研究活動を行う、本プログラム。本学からも篠原さん、前田さんの2名が英語での面接を突破し、熊本市の代表として参加することになりました。篠原さんは「初めての留学なので、上手にコミュニケーションをとれるようになりたい」、前田さんは「グローバルな視野を身に付けたい」と意気込みを語っています。

SOJOへようこそ！留学生ウェルカムパーティ。

6月13日、本学に新しく来た留学生たちとの交流を目的とした、ウェルカムパーティが開催されました。慶賓館(学生食堂)自慢のパーティメニューを囲み、ゲームやよさこいの演舞を楽しみました。

留学生たちの4.14

BANGLADESH→SOJO

ハラールフードの備蓄に、助けられました。

私は留学生がたくさん集まっていると聞いて、熊本市の国際交流会館へ避難しました。イスラム教徒のためのハラールフード※の備蓄があったり、スマートフォンの翻訳機能を使って話しかけてくれる方もいたので、安心して過ごすことができました。

※ハラールフード
イスラム教の法律にのっとった食品。

大学院
応用化学専攻修士2年
ワリウル・イスラムさん
〈バングラデシュ／ラジャヒ大学〉

FRANCE→SOJO

友達とその家族が、支えてくれました。

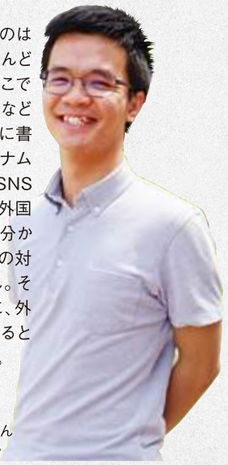
本震から3、4日後、友人の実家がある岡山に避難しました。友人の家族の方たちも心配してくれて、とても安心したのを覚えています。その後は岡山のスーパーを巡り、研究室のみんなに送るための水やお菓子などを集めました。

応用微生物工学科
交換留学生
グレニエ・カロリンさん
〈フランス／Ecole de biologie industrielle〉

VIETNAM→SOJO

ニュースを翻訳して、友人に配信。

震災時、一番困ったのは英語での報道がほとんどなかったことです。そこで私は、ネットニュースなどの情報をベトナム語に書き換えて、同じベトナム人留学生の友人にSNSで発信していました。外国人の多くは日本語が分からない上に、地震時の対処方法も知りません。そのような人のために、外国語での報道が増えると良いかもしれません。



情報学科3年
ファン・ジック・ホアンさん
〈ベトナム／ハノイ大学〉

崇城大学専門学校

情報学科／情報システムコース・オフィスビジネスコース・情報医療事務コース

オープンキャンパス日程
開催時間 10:00～12:00
学科内容・資格取得・就職等の説明及び校内見学と体験学習
平成28年
□ 7月23日(土)
□ 8月 6日(土)
□ 8月27日(土)
□ 9月10日(土)
□ 9月24日(土)
□ 10月15日(土)
□ 11月26日(土)
平成29年
□ 1月 7日(土)
□ 2月 4日(土)
□ 3月11日(土)

学校見学会
毎週金曜日
16:00開始（約30分）
学科内容・資格取得・就職等の説明及び校内見学
参加者には粗品を進呈いたします

崇城大学専門学校
〒860-0806 熊本市中央区花畑町10-25
お申し込みはEメールまたはホームページで。 E-mail▶info@sojo-c.ac.jp URL▶http://www.sojo-c.ac.jp/ TEL▶096-323-1122

CAMPUS NEWS

SILC「七夕パーティ」今年も開催！

7月7日の17時から慶賓館（学生食堂）1階にて、七夕パーティが開催されました。今年も大勢が参加し、大盛況のうちに終わりました。浴衣や甚平を着た学生も多く、先生たちと楽しくゲームをしたり、短冊に英語で願い事をしたりと楽しみました。

ENJOY! アフタースクール

AFTER SCHOOL

部活・サークル・同好会編

「岳風」学生広報委員
募集中！
興味のある方はこちらまで
koho@ofc.sojo-u.ac.jp

[部長]
応用微生物工学科3年
宮末さん
〈福岡県／田川高校出身〉

フラワーカンパニーズ同好会

キャンパスを花でいっぱいに。

キャンパス内の花壇などに花や野菜を植えて、みんなでほのぼのと活動中。現在はトマト、オクラ、えだ豆を栽培しています。その他、井芹祭での模擬店出店などの行事もあります（メニューはたい焼き！）。

■活動日時／金曜日の昼休み（たまに放課後も）
■活動場所／SILC前花壇、
本館裏の小さな畑
■部員数／34名

入部希望者は部員に声をかけてね！

ロボット研究会

試行錯誤を重ねながら ロボット製作！

大会やイベントに向けて、日々ロボットづくりに取り組んでいます。自分が想像したものを1からつくりあげるのは、貴重な体験ですよ！

■活動日時／平日の放課後
■活動場所／I号館5階 508前の部屋
■部員数／22名

《大会実績》
九州夏ロボコン3部門中2部門にて、優勝経験あり。オープンキャンパス、地域のイベントなどにも参加。

[部長]
機械工学科3年
吉田さん
〈福岡県／八女高校出身〉

[主将]
ナノサイエンス学科4年
中村さん
〈熊本県／文徳高校出身〉

入部希望者は部室に来て声をかけてね！

空手道部

伝統と実績は どの部にも負けません！

来年で創部50周年！日本一に二度も輝いた監督と共に、日々励んでいます。寒稽古などもあるので、メンタルも鍛えられますよ。

■活動日時／平日の放課後
■活動場所／道場棟1階
■部員数／8名

《大会実績》
全九州学生空手道個人戦 出場
教育空手道交流会 in SOJO

センパイ質問です！

学生広報委員が崇城大学の卒業生にインタビュー！お仕事のこと、学生生活のこと、就活のことなどをたくさん聞いてきました。

モリタインテリア工業株式会社
デザイン学科2014年3月卒業
溝口さん〈長崎県／西海学園高校出身〉

Q この仕事に就こうと思ったきっかけは？

A 小学生の時から画家を目指していましたが、家具のデザインをされていた飯田先生と出逢い、自分も同じ道に進もうと思ったのがきっかけです。

Q 一番やりがいを感じたのはいつですか？

A 自分のアイデアが初めて商品化されたときですね。上司のアドバイスを受けながら試行錯誤を重ね、ようやく完成させた商品です。

Q 就活のコツを教えてください。

A しっかり準備をしておくことが大切だと思います。デザイン学科の人などは、ポートフォリオの見せ方を工夫してみてください。

就活の極意

学生主体の就職サークル
Visit Company

Visit Companyは学生が主体となって就職活動に取り組み、学生目線で学内に情報を発信・共有するサークルです。主な活動内容は、自己分析やグループディスカッション、面接の練習、企業訪問など。“1・2年次から就活を考えた行動をしている学生がいる”という刺激は、学内に良い影響を与えています。

就活サークルVisit Companyが いつも心がけている極意を大発表！

其の一 受け身ではなく自ら行動
セミナーやインターンシップなどにも参加してみよう。

其の二 情報収集は徹底的に
HPに頼らず、実際に企業に足を運んでみよう。

其の三 ともに頑張る仲間を得よ
色々な情報がゲットできるかも。

其の四 面接は練習あるのみ
もちろんグループディスカッションも。

其の五 とにかく楽しめ
前向きな気持ちで何でも挑戦。